

---



---

 学 会 記 事
 

---



---

## 第 6 回新潟周産母子研究会

日 時 平成10年 3 月 28 日 (土)  
午後 3 時より  
会 場 新潟大学医学部有壬記念館

## I. 一 般 演 題

## 1) 新生児遷延性肺高血圧症に対し一酸化窒素吸入療法の施行された 4 例の検討

堀 智里・許 重治  
須藤 正二・上村 孝則  
内山 聖 (新潟大学小児科)  
本多 晃・松下 宏  
高桑 好一・田中 憲一 (同 産婦人科)

【はじめに】当施設における新生児遷延性肺高血圧症 (PPHN) に対する一酸化窒素 (NO) 吸入療法施行 4 例について比較検討した。

【方法】NO 吸入開始基準としては、100%酸素投与の人工換気下で PaO<sub>2</sub> が 80 mmHg 未満または SpO<sub>2</sub> 94% 未満が 3 時間以上続く PPHN 症例とした。効果判定基準としては、NO 吸入療法開始後 (最高 NO 濃度 25 ppm) 40% 以上の Oxygenation Index の低下があり、かつその効果が全経過を通じて持続した症例を有効とし、この判定基準を満たさなかった症例を無効とした。

【結果】2 例については効果が認められ、残る 2 例については無効であり ECMO が導入された。

【考察】無効例については組織レベルでの肺障害が広範囲であること、NO が目的とする肺血管に到達できない病態が存在すること、循環動態が悪いこと等が考えられた。

## 2) FISH 法で診断し得た隣接遺伝子症候群

宮川 公子 (県立新潟女子短期  
大学生生活科学科)  
渡辺 徹・坂野 忠司  
山崎 明・永山 善久  
大石 昌典・岩谷 淳  
阿部 時也・上原由美子 (新潟市民病院)  
小田 良彦 (小児科)

## 3) 胎盤血管腫における周産期合併症

花岡 仁一・関根 正幸  
青野 一則・東條 義弥 (新潟市民病院)  
竹内 裕・徳永 昭輝 (産科)  
大石 昌典・永山 善久  
坂野 忠司・岩谷 淳 (同  
山崎 明 (新生児医療センター))  
渋谷 宏行 (同 臨床病理部)

出生前に胎盤血管腫と診断し、しかも腫瘍内に動脈シヤントの存在が疑われたことから経時的に胎児心機能などを検索しながら観察したところ、新生児は small-for-dates で、一過性心機能低下、多発性皮膚血管腫が認められた 1 症例、また、多量の母児間輸血および早剥、子宮内胎児死亡をきたし、それぞれに小さい胎盤血管腫が見い出された 2 症例、さらに、一過性の羊水過多、妊娠中毒症軽症を合併し早産した症例など、多彩な周産期合併症を伴った胎盤血管腫の 4 症例を経験した。これら 4 症例を、特に出生前診断された症例について詳細に報告する。

胎盤血管腫では、胎児貧血、胎児心不全、胎児水腫、IUGR、母児間輸血、早剥、羊水過多、妊娠中毒症、新生児先天異常など、多彩で重篤な合併症をきたすことがある。したがって、出生前診断可能な大きな腫瘍はもちろん、小さな腫瘍でもこれらの合併症を念頭に置く必要があると思われた。

## 4) 先天性表皮水疱症の 1 例

菅野かつ恵・土田 正仁 (県立中央病院)  
丸山 茂・須田 昌司 (小児科)

先天性表皮水疱症の軽症例を経験した。症例は、生下時から水疱と表皮剥離で発症し、生後 2 週から 4 週にかけては、口腔内の水疱とびらんが認められ、一時的に哺乳不良になった。生後 5 週からは、口腔内のびらんも改善し、哺乳可能となったが、四肢を中心に水疱は認められていた。

先天性表皮水疱症は、有病率が人口 100 万対約 4.5 の非常に稀な疾患である。また、組織所見と経過から多くの病型に分類され、予後も様々である。一般に軽症例では、水疱形成は軽微で、粘膜疹を認めないとされているが、本例のような軽症例でも、一過性に粘膜疹をみとめ、哺乳不良となることがあるため、注意が必要である。